

発車メロディーの研究

3年 fukku268

この部誌を手にとってくださった方ならご存知の方も多と思われる発車メロディー。列車が発車するためにドアを閉める直前に駅のホームで流されるメロディーのことである。近年この発車メロディーが市民権を得つつあるが、発車メロディーの歴史はあまり長くはない。今回は発車メロディーの研究と題して、それら発車メロディーの過去と未来を中心に追っていこうと思う。

発車メロディーというのは乗降促進放送の一種で、簡単に言えば乗客に発車を知らせるものである。先述の通り発車メロディーそのものの歴史は浅いものの、その先駆けを振り返ると100年以上も前になる。

それは「振鈴」と呼ばれるハンドベルで、1901年、山陽鉄道（現：山陽本線）の神戸～馬関間開通当初にその始発駅であった馬関駅（現在の下関駅）に用意されたものである。発車5分前に待合室で、1分前にはプラットフォームで「ガラーン、ガラーン」と大きな音で鳴らされたそうである。

下関駅の外、大阪の交通科学博物館や東京の交通博物館（現在は大宮の鉄道博物館に移転）でも保管されていることから、明治後期にかけて日本各地で使用されたということが分かる。

しかし鉄道利用客の増加とともに、鐘一つで乗客に周知させることが難しくなり、電子ベルが導入されることとなり、1912年1月8日に上野駅に導入されたのをきっかけに全国各地に発車ベルが広まっていき、振鈴はその使命を終えたのだった。

その後は日本国有鉄道が解体される昭和末期まで発車ベルが使われ続けることとなる。

右の写真に写っているのが、現在下関駅で保管されている「振鈴」である。普段は展示されておらず、通常ではお目にかかれない代物なのだが、4年前の夏に私が下関駅を訪れた際に、下関から大阪方面に帰るための夜行列車（今は亡き「ムーンライト九州」）が九州内で車両故障を起こし、夜な夜な3時間近く足止めをくらったことがあり、下関駅の駅員氏のご好意で、同じ列車を待っていた10人の旅人の方々と一緒に駅の事務室に招いていただいた際に見せていただいたもので、実際にガラーンガラーンと振らせていただいた。余談であるが、この写真を撮影したのは深夜1時のこと。夜遅くまで私たちを案内してくださった当時の駅員氏には感謝しきりである。



なお、下関駅の振鈴はこの年（2006年）の1月に下関駅放火事件によって柄の部分や箱などが焼失してしまっており、この写真のものも右側に写る箱と柄の部分は、焼け残った駅舎の柱を

加工して修復されたものである。

発車メロディーの普及は1990年頃から始まっている。

発車メロディーというものを全く初めて導入した鉄道会社は京阪電気鉄道といわれているが、これは当時のこの京阪のみの事例であり、この時点では発車メロディーの普及には至っていない。大きな転換期が訪れたのは1980年代の後半になってからで、ちょうど国鉄が民営化され、JR旅客6社になったところのことである。

JR東日本では、長らく使用されていた電子音による発車ベルが多数の駅利用客から耳障りであるなどと不評であった。それを受け、1988年に千葉駅の発車ベルをすべて廃止している。ちなみに千葉駅は現在も発車ベル・発車メロディーの類はおろか、一部のホームを除いて、列車の接近や発車などを案内する自動放送さえ導入されていない。

その後、女性社員らが中心となりプロジェクトを立ち上げ、音響機器・楽器メーカーとして知られるヤマハに新しい発車メロディーの製作を依頼し、1989年3月11日に新宿駅と渋谷駅に導入された。なお、現在ではヤマハ製の発車メロディーは使用されていない。

90年代に入ると、上記の発車メロディーが好評であったことを受け、他駅への導入が進められていくようになった。しかし、コスト削減のためにヤマハ製のものは導入されず、ユニベックス（日本電音）社製のものが導入されていった。その後、東洋メディアリンクス、五感工房（東洋メディアリンクスの子会社）、永楽電気、カンノ製作所、櫻井音楽工房（テイチクエンタテイメントの子会社）、サウンドファクトリーなどの会社が発車メロディーを提供するようになった。

なお発車メロディーの現状、例えばどのようなメロディーがあるか、どの駅でどのメロディーが使用されているかなどは、インターネットで検索をかけてもらうとすぐに調べることができるので、今回は省略させていただきます。

以前は発車メロディーには既存の楽曲を使用することが多かったが、近年は発車メロディーとして作曲された楽曲を使うことが多くなった。（後述の「ご当地メロディーは例外」）

先述の通り、発車メロディーを発注している企業はいくつかあり、それぞれ違った作風のメロディーを制作しているのだが、その企業間の壁を越えた「発車メロディー音源集」が2005年に発売されている。

まず写真右のCDは2004年に発売された、テイチク（櫻井音楽工房）の発車メロディー楽曲のみを収録した音源集である。この1年前の2003年に、山手線の高田馬場駅の発車メロディーが「鉄腕アトム」に変更され、利用客や商店街からは好評を得ており、次第に発車メロディーという音楽が鉄道好き以外にも認知されてきたころだった。

そして写真左のCDは2005年に発売され



た音源集であるが、こちらはテイチクのものだけでなく、ユニベックスや東洋メディアリンクス、五感工房（G K）の発車メロディーも収録され、インターネットでも大きく取り上げられ、話題になった。

次第に人々に認知されつつあった発車メロディーを、さらに認知させたのは動画投稿サイトの台頭によるものもある。

2007年の初めに、YouTubeやニコニコ動画に投稿された「JR東日本 駅発車メロディメドレー」という動画。もしかすると、これを読んでくださっている方の中にもこの動画をご覧になった方がいるかもしれません。

この動画は各サイト合計で230万回以上も再生され、大きく注目された。

動画の内容はJR東日本で使われている発車メロディーを自ら耳コピー（自ら耳で聴いて、譜面に起こしたり演奏したりすること）をしてメドレー形式にしてピアノで演奏するというものであった。

その演奏者の名は松澤健さんという方で、その後いくつかのTV・ラジオ番組、新聞、雑誌に取り上げられ、さらにその耳コピーの正確さから、発車メロディーの楽譜「鉄のバイエル」を出版するまでに至っている。

ピアノがほとんど弾けない私も「鉄のバイエル」を購入したのだが、“バイエル”の名の通り、初心者にも優しく親切な作りとなっている。

それはさておき、その後動画投稿サイトでは自作の発車メロディー（と称した短い音楽）や、既存の邦楽やアニメソングを発車メロディー風に短くアレンジした音楽、また発車メロディーをつなげて一つの曲にアレンジした動画などが次々にアップロードされており、乗客に発車を知らせる以外での「発車メロディー」という新しい“音楽”のジャンルを築いていった。

その新たなジャンルに乗っかる形で、本来の発車メロディー制作者たちも邦楽やアニメソングなどをアレンジした発車メロディーのアルバムをリリースしている。

こちらに興味のある方はぜひインターネットで検索してみると良いだろう。

このようなことから、発車メロディーが市民権を得ることとなり、今まで発車メロディーが導入されていなかった私鉄を中心とする鉄道各線も次第に発車メロディーを導入するようになっていく。

これは、鉄道会社が自発的に導入するという以外にも、利用者側から「発車メロディーは導入されないのですか？」といった質問や要望がたびたび鉄道会社側にされるようになったことも影響していると思われる。

今後様々な鉄道会社に発車メロディーが導入されていき、皆さんの耳に届く回数も増えていくだろう。

そんな発車メロディーには、このようにちょっとした雑学的な背景があるのだなということを知ってもらって、少しでも興味を持っていただけたなら幸いだ。